



青南だよい

令和8年2月号
港区立青南幼稚園
園長 石川 典子

節分は“自分”と向き合う機会

もうすぐ節分です。節分とは「季節の分かれ目」という意味です。二十四節気の「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日のことで、年に4回でしたが、今ではほとんど立春の前日だけをさすようになりました。

節分に向けて子どもたちは、学年ごとに鬼の面や升などを作り、豆まきをします。「自分の中の悪い鬼」を追い出す豆まきは、幼児が自分と向き合い、「成長したい」「よくなりたい」と願いを考え、変えたいところ・変わりたい自分を意識するきっかけとなります。客観的に自分を見ることができるようになった証でもあります。日本の伝統行事から、子どもたちの心の成長が伺えます。

幼児が節分の行事を通して、長い歴史の中で育んできた伝統や文化の豊かさを感じ、由来を聞き、いわれやそこに込められている人々の願いに気付くことができるようになります。



表現はなぜ大事？

本園の子どもたちは劇や歌、合奏などを思い切り楽しみ、さらにそれを「誰かに伝えたい」「一緒に楽しみたい」と思いながら、友達と一緒に豊かに表現したり、友達に発信したりしています。歌は、歌詞を暗記して歌うのではなく、一人ひとりが歌詞から情景を思い浮かべ、歌詞に思いを寄せながら、そこに歌のリズムや曲調、音などを聴き、感じながら歌うことを大切にしています。心を動かして感じ、イメージを抱くことによって、想像力や創造力、感性などの内面が育ち、やがて思いや意図をもった主体的な表現につながります。自分の気持ちを自分の形で自信をもって他者に伝えることができる自己肯定感の高い子どもに成長します。

子どもの成長を支える保護者



2月の「発表会」「音楽会」では、子どもたちの資質・能力が豊かに育まれていることを見て感じていただきたいと思います。そのために、保護者の方も感性や想像力を発揮していただけますと幸いです。そして、年度終了間近に、保護者の方同士、園と共に学級の幼児の育ちを喜び合いたいと思います。園と保護者の方が両輪となり、子どもたちの自信や満足感を高め自己肯定感を育んでまいりましょう。よろしくお願ひいたします。

令和7年度 港区立青南幼稚園経営計画 －主体性を発揮して みんな笑顔の幼稚園－

子どもの自己肯定感を主体的に育む保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメントを築き、安心・安全の基地となり子どもを支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長を先生や保護者同士で喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動を理解、協力し、園や地域と共に子どもを育む保護者

(幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針 より)

